

龍源寺報

2010. 1. 10

臨濟宗・妙心寺派	樹明樹
住職 松原正哲	樹明樹
副住職 松原正福	樹明樹
住職 松原正福	樹明樹
TEL	3451-1853
FAX	3451-6094

振込 00160-0-104918 東京都港区三田5丁目9-23 (郵便番号 108-0073)

Email: ryugenji@ryugenji.com URL: http://www.ryugenji.com

俱^{ぐてい}胝和尚指を起てる

—「無門関第三則」—

禅の極地というのは、坐禅して無になることです。「無になること」というのは、心に何も思わない坐禅をすることです。人間は「考える葦」ですから、坐禅中に意識して何も考えないでいるというのは無理に近い。意識しないで、と言いましたが、意識しないこと自体を意識するわけですから、そう簡単には無にはなれない。まあ、とにかく無になろうと決めたとします。

心に生じる思いを完全に消し去ります。そうしないと無にはなれない。この心に生じる思いのことを指をたてることに喻えましょう。この思いを無くすことは、指(思い)を断ち切るしかない。そこで次のような問題、つまり公案が出来上がりました。

俱胝和尚さんは禅とは何かという質問があれば、いつも指を起てました。和尚の言いたいのは、「人間というのは常に指を起てておるわい。妄想

・煩惱を心に懐いておるわい。」と言うのでしよう。近所の子どもも和尚のまねをして指を起てます。すると、和尚は子どもを起てた指をちよん切ってしまう。

考えてみたら実に無惨なひどいことをしたわけですが、勿論これはフィクションです。

和尚の示したいのは「人間はみんな心の迷いを持っておる。まあ、ちよん指を起てているようなものさ。それを坐禅して無にするのは、あたかも指を断ち切ることさ。」と、説き明かしたので

公案の答えが先になりました。問題は、和尚が子どもを起てた指をちよん切った。これはどういう意味かと言うのが公案が問うところですよ。どういふことかって？ 何、指という煩惱・妄想を坐禅して断ち落とせば良いのじゃ、と。ただ、それだけの話ですワ。

▼喪中につき、新年のご挨拶を欠
柳 緑 礼させていただきます▼昨年九月

に、龍源寺住職を辞職しました。

花 紅 長年、ご指導いただきました有難

うございました。四十年近くの住

職時代には、ほとんど何もありませんでした。

両親を無事に送り、私の勤めが終わりました

ので、長男の茂樹に後をお願いしました▼私

も古希となり、現役を退くのが予定よりも十

年遅れました。その分、交代がずれましたが、

両親がそれだけ長生きしたことは幸せなこと

でした。新任職を私同様に可愛がっていただ

きたいと思います▼考えてみますのに、私達

が結婚してから四十年が経過しました。明治

と大正生まれの両親を四十年もみてくれたわ

けです。周囲から家内に感謝しろ、と脅迫を

受け続け、鬱になりかかっていたので、七十

歳の誕生日に一大発心して、私の懺悔の旅に

連れてゆきました。長年の飲み屋のつけを支

払ったようなスーツとした気持ちでいます。

▼この四十年間は、苦勞した母を連れて全国

を旅行していました。懺悔の旅を振り返ると、

今回訪れた旅先のほとんどが、母を連れて行

ったところでした。そんなところに家内を引

き連れて、なんとまあマザコンと、あきれ

ことでしょうか、それだけいろいろな温泉に

旅したと言うことです▼昨年は、私の入院か

ら異変が始まり、母の死、再入院、そして父

の死と矢継ぎばやの、滅多にない出来事が襲

いました。二人の通夜、葬儀、初七日、四十

九日、百箇日と休む間もない法要が続き、疲

れ果てました▼しかし、三人の息子達が、手

足となって私達二人を助けてくれ、なんとか

恥をかかずに、正月を迎えることが出来たの

です。祝えない正月。喪に服すから仕方があ

りませんね▼心臓の中隔欠損症も医師が言う

には、完璧なものだそうで、二つの穴は歴然

と存在していますし、心臓が不調のために、

腎臓、肝臓の数値が悪い。あれだけ好きなお

酒も六月以来、全くの一滴も味わえず、つま

らない晩年になりました。たばこも酒も捨て

きって、あれよあれよという間に、聖人にな

りましたが、聖人なんてつまらんもんです

▼住職を引いて閑栖になりましたが、こちら

も名ばかりで、実際には鹿野山の仏母寺の住

職。といっても、人間様の法事はほとんど無

くて、犬猫の供養をひたすらしています▼講

演、執筆は相変わらず、海外取材も以前通り。

ドクターはいい加減にしなさいと、首を縦に

振ってくれないので、内緒で動き回っていま

す。だって、なんにもしないで、ただ老いば

れて死ぬのを待って生きてゆくなんて、あな

た、出来ませんか？▼新任職、次男正樹、三男

良樹は、おかげさまで、それなりに自分の道

を模索しています。長男はバトンを受けて走

り出し、次男はパークレー校の教授などアメ

リカ中心に動き回り、三男も住職となり布教

しています▼次男は龍源寺・仏母寺の副住職、

後の二人も私が不調の時は、鹿野山で助けて

くれています。古希を過ぎて、アクアライン

の往復運転しています。古来、希なりですわ

▼お正月は三日、仏母寺で新年の賀儀受け。

檀信徒の方々がお詣りに来られる。八〇〇人

分くらいのお茶の接待です。抹茶茶碗に鼻水

を垂らさないように気をつけましょう。ええ、

六五〇メートルの標高ですから、咳もくしゃ

みも飛ばさないように要注意▼寒気迫る山寺

でお正月を迎えるカントリー坊さんと、一方、

大都會でぬくぬくと暖まって、酒食らってい

るシテイ族のあなたに幸せを▼寺報も新任職

の仕事ですが、しばらくは手伝えと言うこと

で。老いては子に従えです。

お正月の飾り

門松は、その年の歳神様が下界に降臨するときの拠り所として立てるもので、常緑の木を門前に立てるのが始まりでした。本格的なものは、長さが違った三本の竹を真ん中にたて、廻りに松や梅をあしらって新縄で結びます。すそは、松の割り薪を並べて、むしろで巻き、縄で縛ります。

こんな本格的な門松ですと、高価すぎて神様はお喜びになるかも知れませんが、我々生き神には、正月そうそう家計簿に負担がかかります。ですから、略式にして雄松雌松を対にした松の小枝のすそに白紙を巻き、輪飾りをつけたものでいいでしょう。門松なら何でも良いと思い、松を二本立てたりする横着者がいます。

向かって左に雄松、右が雌松ですよ。

玉飾りは玄閼。輪飾りはトイシ、台所にはしめ飾り。これは古い歳の不浄を払い、歳神様を迎える歓迎の意味と、新しい歳の豊作を祈願するため、玉飾りと輪飾りがあります。玉飾りは、しめ縄を輪に結び、裏白、ユズリ葉、縁起物のだいたいや昆布、伊勢エビなどをあしらひ、一般には、玄閼の正面の軒下や

マンションのドア、神棚に飾ります。これは災いの侵入を防ぐためです。

今時は、何でも良いから飾っちゃえと、適当に配置してしまえますが、そんなことをしたら、もしかしたら歳神様がとまどいます。この家は、わしを本気で迎えたのか、とね。まずは、飾り物を買いたいときは、一体これはなんのためなの？という理解をしないといと。

とは申ししても、歳神様からしてわからない。歴注でその歳の福徳を司る神様のことです。この神様の在る方角をあき（明）の方、または恵方（えほう）といい、万事に吉とします。としとくさん、というではありませんか。なに、それもご存じでない？

大掃除って、年末行事だけではないんですぞ。お正月には、今申した歳神様が元旦に降臨されると信じられてきたのです。いままでは、ですから、気持ちよくお迎えしましょう。門松を立て、しめ縄を飾り、大掃除をして、綺麗にしないと。昔は、餅つきをしたのも、歳神様を迎えるためでした。神様のご馳走です。

お寺では、迎春準備といい、十二月十三日

から二八日までの間にします。門松やしめ飾りは二九日にはしません。お餅つきもそうでした。「苦待つ」と言うんです。苦餅とも。両親を一气に亡くした松原家にとっては、もう苦は待ちたくない。

三一日になって、飾らなくちゃと言うことで門松を立てたりします。これも「一夜飾り」と言って、不吉とされたのですよ。こういうことは知らない、思わぬことから恥をかく。知っておけば、損はしません。

年始回りですが、親戚、仲人、上司など日頃お世話になっている方々に挨拶回りをするのです。元旦はなるべく避ける。二日から松の内までにすませるのが礼儀です。特別に招待されておらず、先客があったりしたら待たずに、玄閼先で挨拶をすませて、すぐ帰るのが礼儀ですぞ。部屋に通されるのをひたすら待ち続け、般若湯をおねだりし、長居をするなんてとんでもない。お歳暮を贈ってある家には、お年賀の品を特別に持参する必要もない。手ぶらではどうも、という方はタオル、石鹸など、お子さんがいる家ならば、お菓子とか。お年玉は両親の前でさりげなく手渡す。という具合です。（辞書など参照）ハイ。